

## 試験研究評価シート（中間）

評価の種類	中間評価	担当名	水質環境担当
課題名 (研究テーマ)	徳島県沿岸における有機物及び窒素化合物の生分解性調査	研究者名	(正) 工内 輝実 (副) 出羽 知佳
研究期間	令和2～4年度		
予算額 (千円)	令和2年度：500千円 令和3年度：500千円 令和4年度：500千円	予算種類	国補 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">県単</span>
必要性	<p>瀬戸内海の水環境については、瀬戸内海環境保全特別措置法の改正や瀬戸内海の環境の保全に関する徳島県計画の変更により「湾、灘その他海域ごと」のきめ細やかな水質管理が求められるようになった。</p> <p>これまでは、水質環境基準や総量規制基準など、量に対する規制が進められてきた。しかし、漁獲量減少やノリ・ワカメの色落ちが発生し、窒素化合物の一形態である溶存態無機窒素が注目されるなど、量的規制に加えて質的管理の視点が求められ始めている。</p> <p>質的管理に向けて、形態別に有機物や窒素化合物を把握する必要があるが、県沿岸海域では全ての形態については把握できていない。</p> <p>そのため、今回、有機物及び窒素化合物について、海域ごとの詳細な水質調査を行うこととした。併せて、生分解試験を行い、形態の変化や難分解性有機物・難分解性有機窒素について調査することにより、海域ごとの特性把握を試みる。これらの調査は、有機物及び窒素化合物の形態別の実態把握につながるため重要であると考えます。</p>		
目標	<p>瀬戸内海環境保全特別措置法及び瀬戸内海の環境の保全に関する徳島県計画にうたわれた、きめ細やかな水質管理を実現するため、従来の量的規制に加え質的管理も視野に入れた施策のための基礎資料となる詳細な水質把握をめざす。</p>		
研究内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 海域ごとの有機物及び窒素化合物の詳細な水質調査を実施する。</li> <li>2 難分解性有機物及び難分解性有機窒素の実態を把握する。</li> <li>3 有機物及び窒素化合物の各形態の変化を調査する。</li> </ol>		
手法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 海水の有機物、窒素化合物について分析し、形態別の濃度を算出する。</li> <li>2 生分解試験を行い、形態別の有機物濃度、窒素化合物濃度を分析し、難分解性有機物濃度、難分解性有機窒素濃度を算出する。</li> <li>3 生分解試験前後の測定結果を比較し、形態の変化について解析する。</li> </ol>		
成果	<p>県北沿岸、紀伊水道及び県南沿岸の海水の分析により、有機物、窒素化合物の形態別濃度を把握するとともに、生分解試験の結果からその変化や難分解性有機物、難分解性有機窒素の存在を確認することができた。</p>		
その他			